

病害名：トルコギキョウ茎えそ病

病原ウイルス：キク茎えそウイルス (*Chrysanthemum stem necrosis virus*; CSNV)



葉の退緑輪紋症状



葉のえそ輪紋症状

1 被害の特徴と診断のポイント

・本ウイルスに感染したトルコギキョウは、茎のえそ、葉のえそ、退緑輪紋やえそ輪紋などの症状を生ずる。トルコギキョウに発生するウイルス病は、これまで10種が報告されており、本ウイルスが所属するトスポウイルスはTSWVによる黄化えそ病、INSVによるえそ斑紋病、IYSVによるえそ輪紋病など、いずれも大きな被害を及ぼすことが知られている。

2 伝染源及び伝染方法

- ・本病は主にCSNVを保毒したミカンキイロアザミウマによって媒介される。
- ・幼虫時に感染植物を吸汁することによりウイルスを保毒し、終生ウイルスを伝搬（永続伝搬）する。
- ・経卵伝染、種子伝染、土壌伝染はしないと考えられる。実験的に汁液接種は可能である。
- ・罹病株を親株に用いた挿し穂による栄養繁殖でも伝染する。
- ・寄生宿主は雑草など広範囲にわたる。

3 発病・伝染好適条件

- ・ミカンキイロアザミウマによって媒介されるため、増殖に好適である高温で発生が多くなる。

4 防除対策

- ・本ウイルスの媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。
- ・罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・ほ場内外の雑草はミカンキイロアザミウマの増殖源となるため、除草を行い環境整備に努める。
- ・施設開口部を寒冷紗や防虫ネットで被覆し、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- ・栽培終了後は施設を密閉し、ミカンキイロアザミウマを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

5 その他

- ・CSNVの宿主範囲は広く接種試験により、ツルナ（ツルナ科）、センニチコウ（ヒユ科）、インパチエンス（ツリフネソウ科）、ほうれんそう（アカザ科）、きゅうり（ウリ科）、インゲンマメ、エンドウ、ササゲ（マメ科）、タバコ、ペチュニア、なす（ナス科）などで感染が確認されている。
- ・CSNVによる病害は、花きではキク、アスター、トルコギキョウにおいて、野菜ではトマト、ピーマン、パプリカ、トウガラシにおいて発生が確認・報告されている（各都道府県特殊報より）。
- ・宮城県では、2010年にキク（平成22年度特殊報第1号）、2011年にトルコギキョウ（平成23年度防除情報第3号）において発生が確認されている。

6 出典

- (1) 参考：日本植物病名データベース（農業生物資源ジーンバンク）
- (2) 参考文献：植物防疫第65巻第9号:18-21.2011年（日植防）
- (3) 写真：宮城県病害虫防除所撮影